

平成22年度
森林及び林業の動向

第177回国会(常会)提出

第1部 森林及び林業の動向

はじめに	1
トピックス	
1 森林・林業の再生に向けた新たな取組	2
2 「東日本大震災」で森林・林業・木材産業に甚大な被害	4
3 「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」の成立	5
4 生物多様性に関する新たな世界目標・ルールの採択	6
5 2011国際森林年	7
6 林業・木材産業関係者が天皇杯等を受賞	8
第I章 木材の需要拡大 — 新たな「木の文化」を目指して —	9
1 木材の需要拡大の背景	10
(1) 木材の供給	10
(国産材の供給は増加傾向)	
(木材輸入は減少傾向)	
(「森林・林業再生プラン」により国産材供給力を強化)	
(2) 木材の需要	11
(一人当たり木材需要量はピーク時の半分)	
(製材用材の需要は大幅に減少)	
(パルプ・チップ用材も減少)	
(合板用材は国産材が急増)	
(我が国の人口は確実に減少)	
(3) 木材の需要拡大の必要性	14
(木材利用には多様な意義あり)	
(林業再生には木材の需要拡大が不可欠)	
(新たな「木の文化」の創出に期待)	
2 木材需要拡大に向けたこれまでの取組	15
(1) 住宅分野	15
(住宅分野は木材需要に大きく寄与、国産材利用の拡大が可能)	
(大量消費市場に向けた取組を展開)	
(住宅メーカーによる国産材利用が進展)	
(木材を使用した長期優良住宅の普及)	
(合板分野における国産材利用が進展)	
(関係者の連携による家づくりも普及)	
(地域材住宅の普及に向けた取組が拡大)	
(2) 住宅分野以外	17
(ア) 住宅以外の建築物	
(イ) 土木工作物	
(ウ) 日用品	
(エ) エネルギー利用	
(オ) 木材輸出	
3 木材需要拡大に向けた最近の動向	20
(1) 公共建築物の木造化	20
(ア) 最近の動向	
(公共建築物の木造率は低位)	
(「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」が成立)	

	(「学校の木造設計等を考える研究会」を開催)	
	(イ) 現状分析	
	(木造建築物は耐火性能を満たすことが可能)	
	(木造建築物の低コスト化は可能)	
	(木質部材の供給体制は不十分)	
	(発注者・設計者の理解が不十分)	
	(ウ) 課題	
	①低層の公共建築物の木造化、内装の木質化	
	②規模・構造の工夫等によるコストの削減	
	③公共建築物に対応した木材供給能力の向上	
	④発注者や設計者への普及啓発と技術者の育成	
	⑤研究成果を踏まえた木造建築物に関する基準の見直し	
(2)	木質バイオマスのエネルギー利用	27
	(ア) 最近の動向	
	(石炭火力発電所における混合利用が進展)	
	(「再生可能エネルギーの全量買取制度」の導入を検討中)	
	(木質バイオマス利用によるクレジット化の取組が増加)	
	(イ) 現状分析	
	(未利用間伐材等の活用が不可欠)	
	(単位発熱量当たり価格は化石燃料と競合可能)	
	(チップはボイラーが最も経済的)	
	(木質ペレットは原料調達が課題)	
	(ウ) 課題	
	①未利用間伐材等の低コストでの安定供給	
	②各種制度の活用による需要の開拓	
	③燃焼機器導入時における初期費用の引下げ	
	④安定的な木質ペレット供給体制の整備	
	⑤新たな木質バイオマス燃料生産技術の確立	
	⑥消費者向けサービスの充実	
(3)	木材輸出	33
	(ア) 最近の動向	
	(加工度の高い品目が多い)	
	(中国・韓国を対象に輸出振興策を実施)	
	(中国の「木構造設計規範」改定への参画が決定)	
	(イ) 現状分析	
	(輸出先国の市場を重視した製品開発が不足)	
	(北米諸国は総合的な木材輸出振興戦略を展開)	
	(中国の木材加工貿易は拡大の見込み)	
	(ウ) 課題	
	①輸出先国のニーズに対応した「マーケティング」活動の展開	
	②輸出先国における規格・規制への対応	
	③木材輸出を推進する官民連携体制の強化	
4	新たな「木の文化」を目指して	38
(1)	木材需要拡大に向けた条件整備	38
	(素材の供給体制整備)	
	(木材製品の加工・流通体制整備)	
	(技術開発の推進)	

(消費者理解の醸成)	
(社会科学専門家の育成)	
(関係者の連携強化)	
(2) 新たな「木の文化」を目指して	39
第Ⅱ章 地球温暖化と森林	41
1 地球温暖化の現状	42
(世界の気候は温暖化傾向)	
(京都議定書では森林吸収量を算入可能)	
(我が国の温室効果ガスの排出状況)	
2 京都議定書の目標達成に向けた取組	44
(1) 森林吸収源対策	44
(「森林経営」の推進が重要)	
(森林吸収量の目標達成に向けた森林整備を実施)	
(2) 森林関連分野のクレジット化の取組	45
(国内クレジット制度と森林分野での取組)	
(カーボン・オフセットを開始)	
(森林分野でのオフセット・クレジット(J-VER)の取組が進展)	
(3) 地球温暖化防止に向けた木材利用	49
(木材利用による地球温暖化の防止)	
(木材利用に係る環境貢献度の評価)	
3 2013年以降の国際的な気候変動対策の枠組み	50
(1) 締約国会議での交渉を継続	50
(2) 森林関連の議論の状況	50
(ア) 先進国の森林吸収源の取扱い	
(イ) 途上国における森林減少・劣化に由来する排出の削減等の取扱い	
第Ⅲ章 多様で健全な森林の整備・保全	53
1 多様で健全な森林の整備	54
(1) 森林の機能	54
(2) 森林資源の現状	55
(我が国の国土の3分の2は森林)	
(森林資源は量的に充実)	
(3) 森林整備の取組	57
(森林整備の必要性)	
(間伐による森林整備を推進)	
(「森林の流域管理システム」による森林整備を推進)	
(公的な関与による森林整備を推進)	
(花粉発生源対策を推進)	
(4) 森林における生物多様性の保全	59
(生物多様性保全の取組を強化)	
(森林における生物多様性の保全を推進)	
(5) 「森林・林業再生プラン」に基づく森林計画制度等の見直し	60
(6) 国民参加の森林づくり等の推進	61
(ア) ボランティアや企業による森林づくり活動	
(イ) 「緑の募金」による森林づくり活動への支援	
(ウ) 「美しい森林づくり推進国民運動」の展開	
(エ) 地方公共団体による独自課税	
(オ) 森林の癒し効果の活用	

(力) 森林環境教育の推進	
(キ) 里山林の再生	
2 国土保全の推進	67
(1) 森林の適切な管理の推進	67
(2) 地域の安全・安心の確保を図る治山対策の展開	68
(3) 森林被害対策の推進	69
(ア) 松くい虫被害	
(イ) 「ナラ枯れ」被害	
(ウ) 野生鳥獣被害対策の推進	
(エ) 林野火災と森林国営保険	
(林野火災は長期的に減少傾向)	
(森林国営保険の加入率は漸減傾向)	
(4) 研究・技術開発及び普及の推進	74
3 国際的な取組の推進	76
(1) 世界の森林面積	76
(2) 持続可能な森林経営の推進	77
(ア) 「持続可能な森林経営」に関する議論	
(イ) 持続可能な森林経営の「基準・指標」	
(ウ) 違法伐採対策	
(エ) 気候変動問題への対応	
(オ) 2011年は「国際森林年」	
(3) 我が国の国際協力	80
(ア) 二国間協力	
(イ) 多国間協力	
(ウ) その他の国際協力	
第IV章 林業・山村の活性化	83
1 林業の現状と課題	84
(1) 林業産出額	84
(2) 林業経営の動向	85
(林業所得は減少)	
(森林保有形態は小規模林家が多数)	
(施業の実施は低位)	
(育林経費は高い)	
(小規模林家の施業・経営意向は低調)	
(相続時における林業経営の継続が課題)	
(3) 林業事業者の動向	88
(林業事業者は森林施業の主体)	
(森林組合の合併が進展)	
(幅広い森林組合の役割)	
(林業事業者の育成が課題)	
(林業と建設業等との連携が拡大)	
(4) 林業労働力の動向	91
(林業就業者の動向)	
(「緑の雇用」により新規就業者が増加)	
(厳しい就業環境)	
(林業労働者の定着に向けた取組を促進)	
2 林業の再生に向けた取組	95
(1) 効率的で安定的な林業経営の確立	95

(ア) 生産性の向上が不可欠	
(イ) 森林施業の集約化	
(森林施業の集約化を推進)	
(提案型集約化施業を普及・定着させるために)	
(不在村森林所有者への働きかけ)	
(施業集約化には情報収集が必要)	
(「森林・林業再生プラン」に基づき施業の集約化を促進)	
(ウ) 路網の整備	
(我が国の路網整備は不十分)	
(丈夫で簡易な路網整備を推進)	
(エ) 機械化の促進	
(2) 森林・林業の再生に向けた人材の育成…………… 100	100
(「人材育成マスタープラン」を策定)	
(「森林・林業再生プラン」の推進に必要な人材)	
(人材育成のための研修を実施)	
3 山村の活性化…………… 102	102
(1) 山村の現状と課題…………… 102	102
(山村での生活条件は厳しい)	
(山村では過疎化・高齢化が進行)	
(2) 山村の活性化を目指して…………… 104	104
(山村には独自の魅力あり)	
(都市との交流により山村を活性化)	
(山村への定住が重要)	
(就業機会の確保が重要)	
(「山村再生支援センター」による支援)	
(「六次産業化法」の公布)	
第V章 林産物需給と木材産業…………… 109	109
1 林産物需給の動向…………… 110	110
(1) 世界の木材需給の動向…………… 110	110
(ア) 主要国の木材需給動向	
①北米の動向	
②欧州の動向	
③ロシアの動向	
④中国の動向	
(イ) WTO交渉の動向	
(ウ) EPA/FTA交渉等の動向	
(エ) 食と農林漁業の再生推進本部の設置	
(2) 我が国の木材需給の動向…………… 114	114
(木材自給率は27.8%に上昇)	
(我が国の木材輸入は全ての輸入形態で減少)	
(我が国の木材輸入は丸太から製品にシフト)	
(3) 木材価格の動向…………… 117	117
(国産丸太価格は下落傾向)	
(製品価格は上昇傾向)	
(国産チップ価格はほぼ横ばい、輸入チップ価格は下落傾向)	
(4) 適正に生産された木材を使用する取組…………… 119	119
(合法木材の使用を普及啓発)	
(森林認証の取得が拡大)	

	(我が国の認証森林面積の割合は低位)	
(5)	特用林産物の動向	121
	(特用林産物の生産額は林業産出額の5割)	
	(しいたけの品質表示について検討)	
	(木炭、竹の利用拡大に向けた取組が進展)	
2	木材産業の動向	122
(1)	我が国の木材産業を取り巻く状況	122
	(ア) 木材産業を取り巻く環境の変化	
	(新設住宅着工戸数は微増)	
	(品質・性能へのニーズが高まる)	
	(イ) 部門別の動向	
	(製材工場は大規模化が進展)	
	(人工乾燥材は増加傾向にあるが低位)	
	(集成材原料は輸入品が多くを占める)	
	(合板用素材は国産材の割合が大幅に上昇)	
	(パルプ・チップも生産量は減少)	
(2)	国産材利用拡大に向けた取組	126
	(国産材を取り巻く状況は大きく変化)	
	(流通体制の効率化)	
	(多様なビジネスモデルの構築)	
	(新生産システム等の取組が進展)	
	(「森林・林業再生プラン」に基づく国産材の加工・流通・利用体制の改革)	
第Ⅵ章 「国民の森林」としての国有林野の取組		129
1	国有林野の役割	130
(1)	国有林野の分布	130
(2)	国有林野に期待される役割	130
2	「国民の森林」としての管理経営	131
(1)	管理経営に関する基本計画	131
(2)	国民の生活を守る森林づくり	132
(3)	流域管理システムの下での管理経営	132
(4)	国民に開かれた国有林野	134
	(国民の声を活かす取組)	
	(国民参加の森林づくり)	
	(木の文化を支える森づくり)	
(5)	地球温暖化対策の推進	138
(6)	生物多様性の保全	139
	(国有林野における生物多様性)	
	(「保護林」の設定)	
	(「緑の回廊」の設定)	
	(野生動植物の保護管理)	
	(「モデルプロジェクト」の推進)	
(7)	木材の安定供給	142
3	国有林野事業における改革の取組	143
(1)	財務状況の健全化	143
(2)	特別会計見直しの動き	143

第2部 平成22年度 森林及び林業施策

概説	147
1 施策の重点(基本的事項)	147
2 財政措置	147
3 立法措置	148
4 税制上の措置	149
5 金融措置	149
6 政策評価	149
I 森林の有する多面的機能の持続的な発揮に向けた整備と保全	150
1 京都議定書目標達成計画等に基づく施策の展開	150
2 多様で健全な森林への誘導に向けた効果的な整備	151
3 森林における生物多様性保全の推進	152
4 花粉発生源対策の推進	152
5 流域保全のための効率的かつ総合的な国土保全対策の推進	152
6 国民参加の森林づくりと森林の多様な利用の推進	153
7 国民の理解の下での森林整備の社会的コスト負担の検討	154
II 林業の持続的かつ健全な発展と森林を支える山村の活性化	154
1 望ましい林業構造の確立	154
2 林業の担い手の確保・育成	155
3 地域資源の活用等による魅力ある山村づくりと振興対策の推進	156
4 特用林産の振興	156
5 過疎地域対策等の推進	156
III 林産物の供給及び利用の確保による国産材競争力の向上	157
1 木材の安定供給体制の整備	157
2 木材加工体制の整備	157
3 低炭素社会への貢献に向けた木材利用の拡大	157
4 適切な木材貿易の推進	158
IV 森林・林業・木材産業に関する研究・技術開発と普及	158
1 研究・技術開発等の効率的・効果的な推進	158
2 効率的・効果的な普及指導の推進	159
V 国有林野の適切かつ効率的な管理経営の推進	159
1 開かれた「国民の森林」の推進	159
2 公益的機能の維持増進を旨とする管理経営の推進	159
3 適切で効果的な事業運営の確保	161
VI 持続可能な森林経営の実現に向けた国際的な取組の推進	161
1 国際対話への参画及び国際会議の開催等	161
2 国際協力の推進	161
3 地球温暖化問題への国際的対応	162
4 違法伐採対策の推進	162